「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という氣持ちでお届けしています。

りゅうま伝

10号
2020年9月24日
高野竜馬

「恩送り」

結婚後、なかなか子宝に恵まれなかったせいか、他人様の出産ニュースが無条件に嬉しい、おせっかいFPの高野です。

さて、今年8月、某社へご挨拶に寄ったら社長不在で専務と話していたら、なんとこの6月に第一子(長女)が生まれたと嬉しいご報告が。何故かその時、スッと頭に浮かんだのは、その会社の「会長」でした。思わず天国の会長も喜んでいるだろうな、と思ったのです。

仕事上の話は全て社長とさせて頂いており、深く会話した覚えがないのに不思議なことです。

私は今も昔もその会社から色々なことを学ばせて頂いています。昔、私が「財務に強くなりたいんです。」というと社長は30年以上前の決算書を出してくださり、「これが内子の第一期の決算書だ。もし、他の会社で決算書を見せてもらったらまずココを見るんだ。」そう言って教えてもらった場所は、貸借対照表(B/S)の右下、純資産の部でした。

「いいか、期を重ねるごとに利益剰余金がどれだけ積み上っているかを見るんだぞ。」当時の私は金融機関から与えられた身勝手な知識しか持ち合わせておらず、損益計算書(P/L)の利益しか見ていなかったので、目からウロコでした。

「決算書を読める」という定義は人それぞれですが、この社長から学ばせて頂いたことは、私のその後の人生を大きく左右しました。

また、その社長は税理士顔負けの知識・見識をお持ちなので、私が間違った見解でも示したら、それはもう厳しく指導されたものです。今となっては何にお叱りを受けたのかさえ覚えていないのですが或る時、叱られてしょんぼりコーヒーを飲んでいると、会長(社長のお父様)がスッと立ち上がりました。そして私の目の前に来て、手の平からチョコレートの包みをそっと私のテーブルの上に置いて、無言で「これでもお食べなさい。」と言われたことがありました。「色々言われたかも知れないけど社長(息子)を悪く思わんでくれよ。」というメッセージを感じました。会長は無口で高倉健みたいな人でした。そして私は、その時の「恩返し」をすることもなく、会長と長いお別れをすることになりました。

今回、専務のお子さん誕生ニュースを聞いて、最近どこかで学んだ「恩送り」のチャンスだと思いささやかなお祝いをさせて頂きました。

「恩送り」とは誰かから親切を受けたら、それを相手に返すのではなく、他の誰かに渡していくというもの。そうして恩が回っていくと社会に正の連鎖が起きてくる、という素敵な考え方です。

折しもお彼岸の季節。今はご人のご恩に想いを馳せることから始めてはいかがでしょうか。

合掌

たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里707-13
090-3407-2123
https://www.takanozaikei.com メール fp.takano@gmail.com

いつも応援してくれて有難うございます！感謝。